

愛岐留学生就職支援コンソーシアム岐阜地区ワークショップを開催

11月26日

2025年11月26日、岐阜大学全学共通教育講義棟において、2025年度愛岐留学生就職支援コンソーシアム岐阜地区ワークショップを開催し、企業8社13名と留学生12カ国22名（朝日大学4名含む）が参加しました。

今年度で8回目となる本ワークショップは、愛岐留学生就職支援コンソーシアムに参画している本学、岐阜県、岐阜県経営者協会、日本貿易振興機構（JETRO）岐阜貿易情報センターの県内4機関が共同で開催し、留学生と県内企業に就職マッチング機会を提供することを目的としています。

ワークショップは2部構成で実施しました。今年度は内容を大きく刷新し、留学生と企業の双方向交流（グルーブトーク）を実施しました。このグルーブトークでは、テーマとして「留学生と企業の"リアル"を知る」を掲げ、留学生と企業担当者からなる少人数のグルーブを作り、具体的な質問を通じて率直な声を共有しました。そして働く側（留学生）と雇う側（企業）の視点から意見を交わし、外国人材がより活躍できる社会のあり方を共に考えました。

第2部「企業と留学生との個別交流」では、例年同様、留学生が参加企業のブースを訪ねて企業担当者と直接交流を行いました。参加した留学生からは「企業の方から、今後日本での就職活動するうえで役立つ情報を得られた。」「第1部のグルーブトーク、第2部の個別交流共に時間が短くて残念。もっと企業の方と話したかった。」などの感想が寄せられ、大変好評でした。

企業担当者からは「留学生の方の不安や期待など生の声を聞く事ができ、留学生採用に向けて参考になった。」「想像以上に学生の就労意欲や長期勤務への意識の高さを感じられた。」「来年も参加したい。」と次へとつながるコメントも寄せられました。

今後も留学生と県内企業の架け橋となり、グローバル人材が地域でより活躍できる環境づくりを全力で進めていきます。



マレーシア国民大学 学生センター訪問団が本学を訪問

1月7日



2026年1月7日、岐阜大学はマレーシア国民大学（UKM）学生センターからNorinsan Kamil Othman 副学長（学生支援・同窓会）をはじめ6名の訪問団を迎えました。

学長表敬では、2025年9月に吉田 和弘 学長がUKMを訪問し、Sufian Jusoh 学長との面談や理工学部の視察、UKMホスピタル訪問を通じて大学間の学生・研究者や教職員の交流拡大について意見交換を行ったことが紹介され（p.1記事参照）、両大学間の更なる協力強化への期待が述べられました。

その後、リム リーフ副学長（国際・多様性・ジェンダー（副）・図書館（副））より岐阜大学の概要説明が行われ、続いて教育推進・学生支援機構の高橋 周平 副機構長が同機構の取り組みを紹介しました。さらに、航空宇宙生産技術開発センターを視察し、最先端の研究設備を見学しました。

今回の交流を通じ、両大学の学生・教職員間の連携が一層深まり、ジョイント・ディグリープログラムを含む国際交流のさらなる発展が期待されます。



チェンマイ大学学長らが本学を訪問

10月9日



2025年10月9日、タイのチェンマイ大学よりPongruk Sribanditmongkol学長ら6名が本学を訪問しました。

本学とチェンマイ大学との友好関係は、1980年代に本学医学部との交流を契機として始まり、2003年には両大学間で学術交流協定を締結しました。

その後も双方の大学への訪問など交流が続いており、今回の訪問では、大学間学術交流協定の更新に関する署名式が執り行われました。

式典では、吉田学長より、両大学の連携強化の機会を得られたことへの感謝が述べられ、今後は医学・工学・農学など幅広い分野で協力を図り、一層の交流を進めていくことが話し合われました。

今回の協定更新により、岐阜大学とチェンマイ大学は学生交流・学術交流をさらに深め、教育・研究交流を推進してまいります。



先輩からのメッセージ

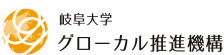
成長とは、献身によって蒔かれ、卓越性によって育まれた種の収穫である

岐阜大学での学びは、その後の私の成長を力強く支えてくれる肥沃な土壌となりました。博士号取得後、私はエジプトのアレクサンドリア大学において、クロマトグラフィー分析部門の技術マネージャーを務めました。岐阜大学で培った専門知識を生かし、わずか2年で同部門の予算を4倍にまで拡大することに貢献しました。現在は、岐阜大学の共同特別研究員として研究活動に携わっています。私の視野を大きく広げてくれたこの大学に再び戻り、さらなる技術の研鑽を積むとともに、科学の未来に寄与できることを大変光栄に思っています。



エルノビ ハサン マハムド
アブドサラム モハメド

岐阜大学大学院工学研究科特別研究員
（工学研究科工学専攻 2023年修了）



編集・発行：岐阜大学グローバル推進機構 E-mail：kokusaik@t.gifu-u.ac.jp

事務局：岐阜大学学務部国際事業課国際総務室（国際交流に関すること）

TEL:058-293-3351 E-mail：int_exch@t.gifu-u.ac.jp

岐阜大学学務部国際事業課留学支援室（留学に関すること）

TEL:058-293-2142 E-mail：direcent@t.gifu-u.ac.jp



岐阜大学国際交流 NEWS Letter

<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/planning/data/newsletter/index.html>



<https://www.youtube.com/channel/UCMJkzq04fsxz03ogeNHC-PA>



岐阜大学国際交流

NEWS Letter

For International Exchange
Gifu University

March 2026

60

令和7年度「大学の世界展開力強化事業～グローバル・サウスの国々との大学間交流形成支援～」に採択



文部科学省が公募する令和7年度大学教育再生戦略推進費

「大学の世界展開力強化事業」～グローバル・サウスの国々との大学間交流形成支援～に、本学が事業責任大学となり申請した「インテリジェント・マニュファクチャリングにおける日印マイクロクレデンシャルを中心とした学生・社会人に対するシームレスな技術者養成プログラム」が採択されました。

本学としては、令和4年度に採択された「グローバルJDPプラットフォーム形成による北東インド・東海圏における実践力のある高度人材育成」に続く2件目の採択であり、今回もインド工科大学グワハティ校（IITG）をパートナー校としています。

本取組において、本学はIITGと共同で設計するマイクロクレデンシャル^(注)を核とした、学生・社会人対応型の技術者育成プログラム（Intelligent Manufacturing Program：IMP）を構築するほか、全学的な学生を対象に、AI・情報科学教育の素養を基盤としながら、グローバル・サウスの学生との対話や地域課題の理解を通じ、国際的な共創力を高める交流プログラム（AI4GLOCAL Ideathon Program）を実施します。

2025年12月には、これらのプログラム開始にあたり、IITGよりDevendra Jalihal学長一行を迎え、新規プログラム立ち上げにかかる協力趣意書及び基本合意書の締結を行いました。また、IITG代表団は「岐阜ジョイント・ディグリンポジウム2025」の一環として開催された学術セッションでの講演を行いました。さらに、3名のIITG学生が来日し、AI4GLOCAL Ideathon Programの試行版に参加しました。

さらに今回の取組においては、日印の学生同士の交流や、インド人留学生の東海地域への定着を促進するため、学生・修了生が参加するコミュニティづくりも計画しています。グローバル推進機構では、これらの取組を通じ、国際共同教育・研究のさらなる発展と、成果の地域還元を目指します。

（注）マイクロクレデンシャル：特定の領域を比較的短時間で学び、その学修成果を評価して証明する教育制度



マレーシア国民大学及びマラヤ大学(マレーシア)、アンダラス大学(インドネシア)を訪問

9月8日～15日



2025年9月8日から15日にかけて、マレーシア国民大学（UKM）、マラヤ大学及びアンダラス大学を訪問しました。

UKMは、ジョイント・ディグリープログラム（JDP）連携大学です。今回、新たに学長に着任したSufian Jusoh学長を表敬訪問し、学生間交流・学術連携、JDPの拡大について意見交換を行いました。また、医学部附属病院において、医療現場の視察、医学部学生・医師・スタッフとの交流の可能性について意見交換を行いました。

マラヤ大学においては、今後の両大学間における教育・研究の連携を一層推進するため、協力意向書（Letter of Intent: LoI）の署名式が執り行われました。また、共同研究の推進に向けた協議を行うとともに、学生交流や学術交流の可能性について、Hasniza Binti Zaman Huri 副学長（学術・国際担当）らと意見交換を行いました。

さらに、在マレーシア日本国大使館を訪問し、四方 敬之 特命全権大使はじめ、JDPガイドライン作成に携わり、本学のJDP設置に支援いただいた北岡 龍也 参事官、岐阜県庁から出向中の安江 俊二 三等書記官らと、マレーシアにおける大学の展開について懇談しました。

マレーシアに引き続き、インドネシアのアンダラス大学も訪問しました。アンダラス大学は、本学との大学間学術交流協定校の中で最も長い歴史を持っています。同大学において、Efa Yonnedi 学長、Syukri Arief 副学長らとの懇談を実施し、翌日に行われた創立記念行事にて、吉田学長がこれまでの医学分野における貢献・業績や今後の展望、岐阜大学および東海国立大学機構の特色について、アンダラス大学教職員及び学生に向けた基調講演を行いました。

その後、岐阜大学インドネシア同窓会のメンバー約30名との懇談を実施し、岐阜大学での生活の思い出や今後の交流の可能性について意見交換を行いました。

今回の訪問を通じて、両国との教育・研究連携のさらなる深化が期待されます。



GIFU UNIVERSITY

1

March 2026

2025年12月5日に、岐阜大学 糖鎖生命コア研究所 (iGCORE) ほか学内各会場において、「岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2025」を開催しました。

東海国立大学機構主催のメインシンポジウムには、対面及びオンラインで95名が参加しました。冒頭、松尾 清一 機構長と吉田 和弘 大学総括理事・副機構長 (岐阜大学長) が開会挨拶を行い、続いて文部科学省 高等教育局の古屋 主織 専門官より「留学生Mobilityの推進及び大学の国際化について」と題した基調講演がありました。その後、IITGのDevendra Jalihal 学長による活動紹介に続き、筑波大学、名古屋大学のジョイント・ディグリープログラム (JDP) 参加学生及び岐阜大学JDP修了生1名から寄せられたメッセージ動画が放映されました。パネルディスカッションでは、「グローバルサウス諸国との学生交流」をテーマに、名古屋大学、筑波大学、山口大学及び岐阜大学の代表者が登壇し、グローバルサウス諸国の大学と教育交流を行う意義や課題、今後の展望について活発な議論が交わされました。

午後から行われた産官学金連携セッションは「持続可能な社会への転換を進める企業活動」をテーマとして開催され、対面及びオンラインで114名 (内企業からも41名) が参加しました。第一部では、岐阜大学のJDPコンソーシアムの活動紹介のほか、コンソーシアム参加企業による竹を中心とするバイオマス資源利用に関する取組紹介が行われました。第二部は「ネイチャーポジティブな農業・バイオマス利活用」と題し、東海農政局及びキリンホールディングス株式会社による事例紹介及び意見交換が行われました。

当日は、メイン会場であるiGCOREのほか、図書館エントランスホールでも地元企業や文化紹介のブース展示が開催され、海外からの来賓も含めた多くの来場者が訪れるなど、終日に渡り充実したシンポジウムとなりました。

今後も同シンポジウム開催等の活動を通じ、JDPを中軸とした地域の国際化推進に努めてまいります。



海外留学フェア2025秋

11月19日

2025年11月19日、グローバル推進機構主催『海外留学フェア2025秋』を開催しました。本フェアは、留学に必要とされる語学力や岐阜大学における留学プログラムに関する情報提供及び留学の促進を目的として、平成24年度から開催しています。

本フェアは、異徹グローバル推進機構留学推進副部門長の挨拶から始まりました。

初めに、留学支援係から本学の留学プログラムや支援制度に関する説明があり、続いて、今年度の短期研修プログラムにより留学した学生から、留学経験に基づく発表を行いました。約10分間の休憩後は、交換留学、学部等の短期派遣プログラム及びトビタテ!留学JAPANを利用して留学した学生が発表を行いました。プログラムを経て、留学前と比べて、英語を使う自信がついたこと、行動力やコミュニケーション能力が向上したこと、将来は海外で働きたいという夢が出来たこと等、留学を通じて成長した姿が伺えました。

また、各発表者の発表後には、参加者だけでなく留学経験者からも質問が寄せられる等、留学への関心の高さが感じられました。



自然科学技術研究科
清水 僚馬



インドへの研究留学

私はグローバルエキスパートプログラム (GEP) の一環として、インド工科大学グワハティ校 (IITG) に留学しました。自身の研究テーマに関する知見を拡げるだけでなく、近年急激な成長を遂げているインドという国を肌で感じたいと考えたことが、留学を決意した理由です。私にとって初めての海外渡航で不安もありましたが、国際総務係の方や現地の方々の温かいサポートのおかげで、充実した留学生活を送ることができました。

この経験を通じ、これまでの価値観に囚われず「郷に入っては郷に従う」ことの重要性を深く体感しました。



2025年8月から12月にかけて、第6回目となるCollaborative Video Making Program (CVMP) 2025を開催しました。本プログラムでは、8月から約5か月間にわたり、本学 (5名)、インド工科大学グワハティ校 (IITG・3名) 及びマレーシア国民大学 (UKM・3名) の学生が3グループに分かれ動画の共同制作を行いました。各グループは、オーストラリアのcreative agencyプロデューサーからスマートフォンでの動画撮影技術の指導を受けながら、「学生生活を比べて分かるユニークポイント」をテーマに動画作品を作成しました。

12月11日には、学生が制作した動画の発表の場としてFinal CompetitionがZoom WebinarとOKB岐阜大学プラザ1階プレゼンテーションエリアのハイブリッド開催にて行われ、動画作品の講評を行いました。

Final Competitionの最後には、特別審査員による採点及び視聴者投票が行われ、グループ3の作品「Our Universities, Our Stories」が最優秀作品に決定しました。本プログラムで制作された動画はGU-GLOCAL Channelから視聴できます。

これらの動画作品が、各大学の学生の海外への興味や関心のきっかけになることが期待されます。



Winter School Program 2025

12月3日～18日

グローバル推進機構では、短期受入プログラムのウィンタースクールを2025年12月3日～18日にかけて開催し、第9回目となる本年は、本学とジョイント・ディグリープログラム (JDP) を設置しているインド工科大学グワハティ校 (IITG) から7名、マレーシア国民大学 (UKM) から2名の学生が来学しました。

本年度は「日本の食品を科学する」というテーマにて開催し、2週間という短い期間に、参加学生らは企業や日本学生との交流、研究活動、日本文化体験等のプログラムを行いました。

企業との交流は、岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウムへの参加、企業理解の特別講義や企業訪問を行いました。日本学生との交流は、岐阜大学の学生や岐阜市内の高校生との交流会を実施しました。研究活動については、茶葉を分析する実験や日本の食文化に関する実験を行いました。そして、日本文化の体験としては、日本語授業受講や十二単のイベントへの参加、八百津町を訪問し、醸造見学や茶園体験をしました。

そして、最終日の12月18日には、本プログラムをとおして学んだことを発表する最終報告会・閉校式を行いました。

※本事業は大学の世界展開力強化事業の支援を受け実施しています。



十二単の着装と体験

12月10日

2025年12月10日、日本語・日本文化教育センターは、日本文化ワークショップ「十二単の着装と体験 ー日本の民族衣装ー」を開催しました。

当日は、インド工科大学グワハティ校とマレーシア国民大学から受け入れているウィンタースクール参加学生や、日本語・日本文化教育センター所属の日本語・日本文化研修コースの留学生、社会文化プログラムの留学生、本学に在籍する留学生や日本人学生及び教職員など、約50名が参加しました。

ワークショップでは、和服の着付けを専門とする伊藤慶子 (豊装慶) 氏他4名の講師陣による指導が行われました。箏の生演奏の披露もあり、荘厳で優美な雰囲気の中、参加者たちに十二単の魅力が伝えられました。

日本語・日本文化教育センターの土谷教授からは、日本語・英語両言語で日本の歴史や十二単の基礎知識の説明がありました。その後、中国出身のシュウ・キョウバイさんが着付けモデルとなり、小袖・長袴の準備を整えた後、単、五衣、表着、唐衣、裳の順に着付けを行いました。参加者からは「十二単は毎日着ていたのか」「トイレはどうしたのか」等の質問が寄せられ、講師が丁寧に回答しました。

着付けの実演後には、希望者による十二単の試着体験も行われ、多くの学生がその重みを体感しながら、写真撮影のひとときを過ごしました。参加者からは「日本の伝統文化の奥深さや美しさを堪能することができた」との感想が寄せられ、日本文化教育の充実につながる有意義な機会となりました。



連合農学研究科
クマリ サプナ



インド

日本での留学経験: 学び、つながり、そして成長

私はこれまでに2度日本を訪れていますが、いずれも私にとって素晴らしい、実り多い経験となりました。最初の来日は、IITGと岐阜大学による ジョイント・ディグリープログラムへの参加がきっかけでした。このプログラムを通じて、日本の先進的な研究環境、規律ある勤勉な姿勢、そして協調を重んじる学術文化に触れることができました。また、日本の友人たちと多くの美しい場所を訪れ、忘れがたい思い出をつくることもできました。こうした経験が、日本でより高度な学びを追求したいという私の強い動機となりました。現在、私は2度目の来日を果たし、文部科学省奨学生として岐阜大学の博士課程で学んでいます。来日当初は言語の壁に苦労しましたが、日本の皆さんはとても親切で、困った際にはいつも温かく助けてくださいました。留学支援室の幹旋による家庭訪問や文化交流イベントなどを通じて、多くの方々と交流する機会に恵まれ、日本社会とのつながりをより深く感じられるようになりました。特に、再び日本で学ぶ機会を与えてくださり、温かく支えていただける素晴らしい研究環境を整えてくださっている指導教員の今泉鉄平先生に、心より感謝申し上げます。今泉先生のおかげで、日本での生活にスムーズに適應することができ、自信を持って学術の道を歩み続けることができています。



Aigi Career Development Consortium for International Students: Gifu Region Workshop | November 26

In November, GU hosted the Aigi Career Development Consortium for International Students: Gifu Region Workshop 2025. 13 representatives from eight companies and 22 international students from 12 countries (attending GU and Asahi University) participated.

Now in its eighth year, the workshop is jointly organized by four consortium members—Gifu University, the Gifu Prefectural Government, the Gifu Employers' Association, and the Japan External Trade Organization (JETRO) Gifu—to create job-matching opportunities between international students and local companies.

The workshop consisted of two parts. This year, the first part was changed to include interactive group discussions under the theme "Understanding the Real Perspectives of International Students and Companies." Students and companies exchanged views openly in small groups and discussed how to create a society where foreign talent can thrive. In the second part, students visited company booths for individual networking.

Feedback from participants was highly positive. Some international students commented, "I gained useful information for future job hunting in Japan" and "I had so much to share that there wasn't enough time in either session." Various company representatives said, "Hearing the real concerns and expectations of international students was helpful for recruitment," "We were impressed by their strong motivation and commitment to long-term employment," and "We definitely want to participate again next year."

GU will continue working to connect international students with local businesses and support global talent in the region.



Delegation from HEP-UKM Visits Gifu University | January 7



GU welcomed a six-member delegation from the Center for Student Affairs of Universiti Kebangsaan Malaysia (HEP-UKM), in January led by Deputy Vice-Chancellor for Student Affairs and Alumni, Prof. Ts Dr. Norinsan Kamil Othman. The visit concerned an overseas GU staff training program at UKM in February 2026.

During the courtesy meeting with President Yoshida, they discussed his September 2025 UKM visit (refer to p1) where he met Vice-Chancellor Prof. Dr. Sufian Jusoh, toured the Faculty of Science and Technology, and visited the university hospital. Both sides expressed hopes to further expand student, researcher, and faculty exchanges.

Vice-President Lim Lee Wah (Global Outreach, Diversity, Gender and Library) then introduced GU, followed by an overview of the Organization for Promotion of Higher Education and Student Support by Vice Director-General, Professor TAKAHASHI Shuhei. The delegation also toured the Intelligent Production Technology Research & Development Center for Aerospace to observe the advanced facilities.

The visit has further strengthened both student- and faculty- ties between our universities, so expansion of exchange, such as the JDP, should result.



President and Delegates from Chiang Mai University, the Kingdom of Thailand, visit GU | October 9



In October, six representatives from Chiang Mai University in the Kingdom of Thailand, including President Prof. Pongruk Sribanditmongkol, visited GU.

Friendship between GU and Chiang Mai University began in the 1980s through active exchanges in the field of medicine. In 2003, the two signed a Memorandum of Agreement of Student and Faculty Exchange, and mutual visits have continued since. This time, a signing ceremony was held to renew the Agreement on Student and Faculty Exchanges. President Yoshida expressed gratitude for the opportunity to strengthen collaboration between the two universities. Later, they discussed broadening cooperation in diverse fields, such as medicine, engineering, and agriculture.

With the agreement renewal, the universities will deepen student and academic exchanges and strengthen educational and research collaboration.



Message from an Alumnus

Growth is the harvest of seeds planted with dedication and nurtured by excellence

My journey at Gifu University provided fertile ground for my professional life. Following my PhD, I served as Technical Manager of the Chromatography Unit at Alexandria University, Egypt. Applying the expertise gained at Gifu University, I helped the unit achieve a fourfold revenue increase in just two years. Currently, I am back serving as a Collaborative Special Researcher at Gifu University. It is a privilege to return to the institution that shaped my perspective, allowing me to further expand my skills and contribute to our shared scientific future.



Dr. Mahmoud A. M. El-Nouby
Special Research Fellow, Graduate School of Engineering, Gifu University
(Graduated from the Graduate School of Engineering in 2023)



Published by Gifu University Organization for Promotion of Globalization (GU-GLOCAL)

International General Affairs Office E-mail : int_exch@t.gifu-u.ac.jp
Inbound and Outbound Student Affairs Office E-mail : direcent@t.gifu-u.ac.jp
International Engagement Division, Student Affairs Department



GIFU UNIVERSITY

Newsletter for International Exchange Gifu University

<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/en/planning/data/newsletter/index.html>



GU-GLOCAL Channel

<https://www.youtube.com/channel/UCMJkzg04fsxzo3ogeNHC-PA>



GIFU UNIVERSITY
NEWS Letter

Japan



For International Exchange
Gifu University

March 2026

60

GU Selected for FY2025 Inter-University Exchange Project —Support for Academic Exchange with Global South Countries



GU will conduct the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)'s FY2025 Inter-University Exchange Project—Support for Building Academic Exchange with Global South Countries. The project which GU will lead is titled, *Seamless Engineer Training Program for Students and Professionals through Japan-India Micro-Credentials* in Intelligent Manufacturing*. This is GU's second selection after FY2022. As before, the Indian Institute of Technology Guwahati (IITG) will partner GU.

Together, GU and IITG will develop 1) an Intelligent Manufacturing Program (IMP), a technical education program based on micro-credentials for both students and working adults, 2) the AI4GLOCAL Ideathon Program, an exchange program open to all students, fostering global co-creation skills in AI and information science through collaboration with students from the Global South and through understanding of regional challenges, and 3) a community for the students and alumni involved, promoting exchange and encouraging Indian students to form long-term ties with Tokai.

In December, GU welcomed IITG Director Devendra Jalihal and his delegation to sign a Letter of Intent and a Memorandum of Understanding. It also hosted The Academic Session as part of Gifu Joint Degree Symposium 2025, which was attended by the IITG delegation. Three IITG students joined a pilot version of the AI4GLOCAL Ideathon at GU.

Through these new initiatives, GU-GLOCAL seeks to strengthen international collaborative education and research while benefiting our community with the outcomes.

*Short, focused learning programs in which learners study a specific field intensively and receive official certification based on achievements



GU President Visits UKM, University of Malaya, and Andalas University | September 8-15



In September, President YOSHIDA Kazuhiro and a GU delegation visited the National University of Malaysia (UKM), the University of Malaya (Malaysia), and Andalas University in Indonesia.

At UKM—one of GU's Joint Degree Program (JDP) partners—the delegation met with the new Vice-Chancellor, Prof. Dr. Sufian Jusoh to discuss student exchange, academic collaboration, and JDP expansion. They also toured the university hospital to explore opportunities for medical collaboration.

At the University of Malaya, GU held a signing ceremony for a Letter of Intent to begin cooperation in education and research. The delegation also met Deputy Vice-Chancellor, Prof. Dr. Hasniza Binti Zaman Huri, to discuss joint research and student- and faculty-exchange.

The delegation then visited the Embassy of Japan in Malaysia and met Ambassador SHIKATA Noriyuki, Counselor KITAOKA Tatsuya—who helped draft the JDP guidelines—and Third Secretary YASUE Shunji. Discussions focused on strengthening GU activities in Malaysia.

The delegation next traveled to Andalas University, GU's longest-standing partner. President Yoshida met Rector, Dr. Efa Yonnedi, and Vice Rector Dr. Syukri Arief, and delivered a keynote speech at the university's 69th anniversary ceremony, highlighting his medical achievements and introducing GU and the Tokai National Higher Education and Research System (THERS).

The visit concluded with an informal gathering with about 30 members of the Gifu University Indonesia Alumni Association, who shared memories and discussed future cooperation.

This visit is expected to further strengthen educational and research ties between Japan, Malaysia, and Indonesia.



The Gifu Joint Degree Symposium 2025 was held in December 5 at iGCORE and other venues on the GU campus.

The main symposium, hosted by THERS¹, welcomed 95 visiting and online participants. It opened with remarks by THERS Chancellor MATSUO Seiichi and GU President Yoshida (THERS Executive Trustee and Vice Chancellor), followed by a keynote speech from MEXT Senior Specialist Ms. FURUYA Kaori on promoting international student mobility and university globalization.

Next, IITG Director Devendra Jalihal introduced IITG. After that, video messages were shown from JDP students at the University of Tsukuba and Nagoya University, as well as a GU JDP graduate.

A panel discussion on “Student Exchange with Global South Countries” brought together representatives from Nagoya University, the University of Tsukuba, Yamaguchi University, and GU to discuss the significance, challenges, and future of exchange with Global South institutions.

In the afternoon, there was an Industry–Academia–Finance–Government Collaboration Session focusing on Corporate Activities Driving the Transition to a Sustainable Society. It welcomed 114 visitors and online attendees (including 41 company officials). Part I highlighted the GU JDP Consortium and corporate initiatives using bamboo-based biomass. Part II, Nature-Positive Agriculture and Biomass Utilization, featured case studies from the Tokai Regional Agricultural Administration Office and Kirin Holdings.

Booths presenting local companies and cultural exhibits filled the University Library entrance hall, attracting many local and international visitors.

The symposium was highly productive, and GU will continue promoting regional internationalization through similar initiatives.

1) Tokai National Higher Education and Research System



GU–GLOCAL Hosts Study Abroad Fair Fall 2025

November 19

Since 2012, this annual event has offered information on overseas learning opportunities, GU study abroad programs, and language requirements.

The fair began with opening remarks by Professor TATSUMI Toru, Associate Division Head of the Study Abroad Promotion Division. Staff from the Inbound and Outbound Student Affairs Office then introduced GU study abroad programs and support services. Students who participated in the year’s short-term programs then gave presentations on their experiences abroad. After a short break, students from previous years’ exchange and short-term dispatch programs, and from MEXT’s Tobitate! Ryugaku JAPAN, were invited to present as well. They spoke about how studying abroad helped them build confidence in English, improve problem-solving and communication skills, and develop an interest in working overseas. Lively Q&A sessions after each presentation reflected the strong interest students have in following such examples.



Studying Abroad



Study Abroad in India



SHIMIZU Ryoma
Graduate School of Natural Science and Technology

As part of the Glocal Expert Program (GEP), I participated in a research exchange at the Indian Institute of Technology Guwahati (IITG). I decided to study abroad not only to broaden my knowledge regarding my research field but also because I wanted to experience firsthand the rapid growth that India has been undergoing in recent years. Although this was my first time traveling abroad and I felt some anxiety, I was able to have a fulfilling experience thanks to the warm support of the International Affairs Office and the local people. Through this experience, I deeply learned the importance of "doing as the Romans do" without being bound by my previous conventions.



From August to December, students from GU (5), IITG (3), and UKM (3) worked in three mixed groups to create videos for the Collaborative Video Making Program (CVMP) 2025. Each group received training in smartphone video production from a producer at an Australian creative agency and created videos on the theme “Unique points seen by comparing student life.”

On December 11, the CVMP Final Competition was held in a hybrid format via Zoom Webinar and at the presentation area on the first floor of OKB Gifu University Plaza. Scores from special judges and audience votes selected the winner as Group 3’s video, Our Universities, Our Stories.

All videos are available on the GU-GLOCAL Channel to encourage more students from the three universities to consider studying abroad.



Winter School Program 2025

December 3-18

GU-GLOCAL held the ninth, annual, two-week Winter School Program¹ 2025 in December. Seven students from IITG and two from UKM—two of our partners in the Joint Degree Program (JDP)—participated.

The theme was Studying the Science of Japanese Food, and included were the Gifu JDP Symposium, special lectures, company visits, and interactions with students from GU and from local high schools. They experimented on tea leaves and Japanese food, learned traditional cooking methods, took Japanese classes, and experienced cultural activities, including a Jūnihitoe (twelve-layered kimono) workshop and visits to a vinegar brewery and a tea plantation.

Finally, at the Accomplishment Reports and Closing Ceremony, they gave presentations on what they had learnt.

1) Supported by MEXT’s Inter-University Exchange Project



Japanese Cultural Workshop: Donnig and Experiencing the Jūnihitoe—Traditional Japanese Attire

December 10

In December, the Center for Japanese Language and Culture hosted a Japanese cultural workshop, Donnig and Experiencing the Jūnihitoe. The event welcomed over 50 participants, including students from IITG and UKM, who were attending the Winter School Program 2025, international students enrolled in the Japanese Language and Culture Studies Course, or the Japanese Society and Culture Program, as well as other international and Japanese students and faculty members of GU.

The workshop featured instruction by Ms. ITO Keiko (known professionally as Houshoukei), a master in Jūnihitoe dressing, along with four other instructors. A live performance of the koto harp added to the solemn and elegant atmosphere, enhancing everyone’s appreciation of the beauty of the Jūnihitoe.

Professor TSUCHIYA Momoko of the Center provided Japanese and English explanations of historical points and the details of the Jūnihitoe. Following this, Ms. ZHU JIAOMEI, an international student from China served as the dressing model. After preparing the kosode¹ and nagabakama², the layers, called *hitoe*, *itsutsuginu*, *uwagi*, *karaginu*, and *mo* were put on this order. Participants asked questions such as "Was the Jūnihitoe worn every day?" and "How did a wearer use the restroom?" to which the instructors responded carefully.

After the demonstration, volunteers had the opportunity to try on the Jūnihitoe themselves. They were surprised at how heavy it was but enjoyed having their photos taken. Many shared positive opinions, like "I was able to fully appreciate the depth and beauty of traditional Japanese culture," showing this to be a meaningful opportunity and important element in enriching anyone’s Japanese cultural education.

1) a traditional Japanese garment with small cuffs 2) a type of traditional Japanese trousers with long, trailing legs that cover the feet and extend into a train at the back



Studying at GU



My Study Abroad Experience in Japan: Learning, Connection, and Personal Growth¹



KUMARI SAPNA
United Graduate School of Agricultural Science

I have visited Japan twice, and both times have been amazing and enriching experiences for me. My first visit was during the IMDFST exchange program between IIT Guwahati and Gifu University, where I gained exposure to Japan’s advanced research environment, disciplined work culture, and collaborative academic approach. During this period, I also visited many beautiful places with my Japanese friends, making it a memorable experience. This exchange program motivated me to pursue higher studies in Japan. Currently, I am in Japan for the second time as a PhD student under the MEXT scholarship. Although the language barrier was challenging at first, Japanese people are very kind and always helped me whenever I faced difficulties. Through IOSAS activities such as home visits and cultural events, I have had many opportunities to interact with people and feel more connected to Japanese society. My special thanks go to my supervisor, Imaizumi Teppei, for giving me the opportunity to return to Japan for the second time and for creating such a welcoming and supportive research environment, which helped me adapt easily to life in Japan and continue my academic journey with confidence.

